

◇ グループ活動

グループごとにフィールドワークを中心に活動しました。現地に入る際に、緑地内に先の台風の影響がないかを確認しながら歩くようにしました。

★植物グループ

第68回施工ワーキングで壁面緑化の定期調査を行うことを決めたので、今回は、切土擁壁1箇所、盛土擁壁1箇所の調査を行いました。

壁面緑化の定期調査

隣接する樹林の日陰で成長量が少ないようです。



盛土擁壁 (No.23) ★2

ナツヅタが、80cm程度成長しています。



切土擁壁 (No.17) ★1

ナツヅタは120cm程度成長し、テイカカズラも誘引を行ったため、擁壁の目地に沿って成長しています。



今後も定期的に調査を継続し、植生回復の様子を確認していきます。

シェルター構造上部の植生回復について

シェルター構造上部では現在、ツル植物のクズやヤブガラシが繁茂し、樹木の生育を阻害しています。今後のグループ活動や小屋の日を使って、地下茎の掘り出しを行うことにしました。今後はさらに除草を頻繁に行って、雑草が繁茂しないようにしていきたいと思います。



シェルター構造上部



次回は、シェルター構造上部の間伐、根株移植したサクラの定期調査とシロアリの防除を行う予定です。

★動物グループ

センサーカメラ調査 ★3

継続的に調査している6つの調査ポイントの他に、動物が道路上を横断しているかどうかを確認するため、シェルター構造西側の道路沿いにセンサーカメラを設置しました。

想定移動ルート



今回の施工ワーキングでは、ロードキルの可能性が高いと想定される場所を現地で確認して、センサーカメラを設置します。

水路を横切って...

道路を南から北に向かって横断しています。

エコトンネルと森がつながって、動物が移動しやすくなるといいね。

柵を付け替えた付近にセンサーカメラを設置して利用状況を見ていきます。

ロードキルとは...

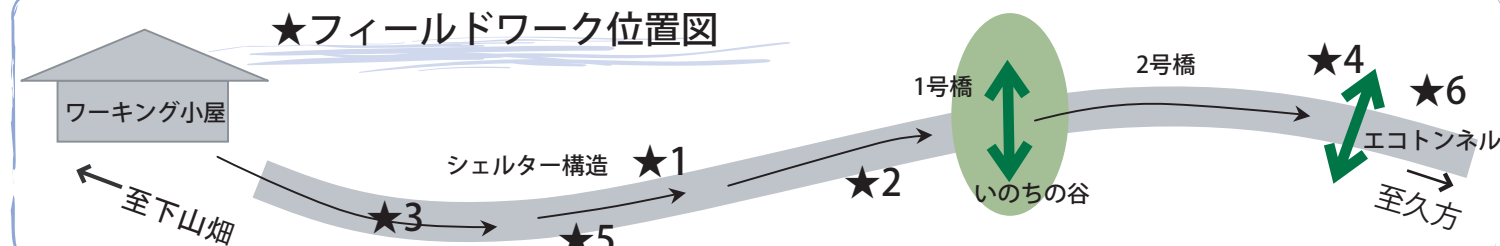
動物が道路上で車に轢かれる現象を言います。側溝に落ちた場合や道路照明に衝突した場合等、道路に起因する野生動物の死傷を全て含めて言う場合もあります。多くの動物が犠牲になっているため自然生態系の保全の観点から問題視され、自動車走行の安全上の問題ともなっています。

動物用ルートの確保 ★4

エコトンネルの北側は、土砂流出防止柵が連続して設置されているため、動物が森へ進入しにくくなっています。一部の柵をずらして、通行しやすい状況をつくりました。



★フィールドワーク位置図



★施工グループ 湧水調査地点の三角堰補強 ★5

既設の三角堰を残しつつ補強するため、アクリル板を加工して前面に設置することにしました。地盤が固くて掘るのが難しかったのでアクリル板を打ち込むことにしました。

補強板を制作中...

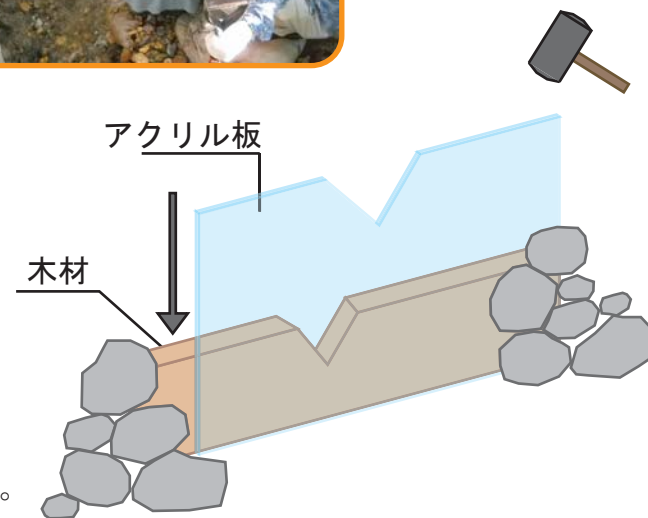


アクリル板を堰の大きさに合わせて切ります。

堰を設置中...



レキが入った土のうがあって、打ち込むのに苦戦しました。



簡単そうに見えて、なかなかの力仕事です。

残念ながら、打ち込む途中でアクリル板が割れてしまい、この日は断念。後日、小屋の日を利用して再度設置しました。次回のグループ活動で状況を確認します。

★交通グループ 久方側散策路の状況確認 ★6

久方側から緑地に入る箇所で、以前は工事用フェンスが設置してあった部分が、撤去されていて、植生回復を図っている箇所に容易に入れる状況になっていたため、フェンスの復旧作業を行いました。

作業前



作業後



次回は、植生回復を図ることと、地元の方や散策される方の利用について話し合い、通行を遠慮していただくための看板の設置などを検討していきます。